

2022年度日系サポーター・日系社会研修（多文化共生推進・日系協力型）案件一覧表

【上半期コース】募集期間：2021年10月18日～11月18日

【下半期コース】2022年1月25日より募集開始

No.	研修科目 和文	人限上入	下上	日日来	日了終	間期研修	目標 / ①成果 / ②期待される在日日系人コミュニティへの貢献（活動） / ③計画（内容）	現職・資格・知識	提案団体・URL・連絡先
NL1	在日日系社会と外国人支援団体の取り組み	1	上	6/19	3/20	9か月	<p>【目標】研修員が、在日日系人社会と日本の多文化共生の現状を理解し、課題解決に向けた知見を習得する。</p> <p>【1】1. 多文化共生のまち鶴見に数多く暮らす日系人や様々な国から移住してきた家族が、どのような課題を抱えながら、社会において生活しているのかを地域での活動を通して肌で感じ理解する。 2. 公立小中学校やフリースクールに通う日系人子弟や外国につながる子どもたちが直面する言葉や文化の壁、あるいは学習の困難などを理解し、日本における移民への教育の現状について学ぶ。 3. 当団体のプログラムへの補助業務を行う中で、日本のNPO法人の運営方法や経理、情報発信、イベント等の企画・実施のノウハウ、行政や他団体、学校等との連携の仕方などを学ぶ。 4. 地域の高校や大学、国際交流ラウンジ等で、多文化共生イベントや多文化教育プログラム等を共に企画・実施し、多文化共生社会の実現につなげる。</p> <p>【2】ポルトガル語やスペイン語を使って、言葉の壁や文化や社会システムの違いから悩みを抱えがちになっている在日日系人コミュニティに飛び込み、さまざまな背景を持つ人たちと触れ合い、交流し、課題や問題点を見つけ、解決に向けた取り組みをサポートする。具体的には、日系人子弟が多く通学する小中学校での母語サポートや多文化教育プログラムへの参加、大人を対象とした日本語教室やプログラムへの補助業務。日系人子弟を対象としたポルトガル語教室の開催等。</p> <p>【3】1. 講義(内容)：在日日系人社会、日本の多文化共生政策、当団体の活動、外国につながる子どもの教育、日本の教育システム、外国人市民への相談対応、日本語講座の聴講等 2. 実習：フリースクール、小学校内放課後教室、大人向けの日本語教室、キャリアアップ支援教室、多文化教育プログラム、日系人子弟対象のポルトガル語教室等 3. 見学：公立の小中学校、高校、専門学校、国際交流ラウンジ、区役所・市役所、教育委員会、日系人が経営する企業、領事館、大使館等 4. 活動報告：検討中</p>	<p>子どもが好きで社会活動に興味関心のある方</p> <p>学歴: 不問 経験年数: 日本語教師、教師(英語・数学)、プログラマー等の経験者が望ましい 年齢: 21～45歳程度 日本語: N3 多言語: 不問</p> <p>備考:</p>	<p>提案団体: 特定非営利活動法人ABCジャパン ウェブサイト: https://www.abcjapan.org/</p> <p>担当者名: 渡辺 裕美子 メール: honbu@abcjapan.org</p>
NL2	多文化共生推進支援	1	下	10/2	1/19	4か月	<p>【目標】日本の行政サービスや外国人支援策、教育システム及び多文化共生の現状を理解し、在住外国人への支援方法を習得する。</p> <p>【1】・日本の行政における外国人支援策や多文化共生の現状、教育システムなどについて理解し、母国との違いについて学ぶ。 ・母国における日本語学習支援にて研修成果を生かし、日本語の簡単な指導技術を習得する。</p> <p>【2】・小松で安心して働き、生活するための情報やルールをひろく周知するための支援 ・地域の日本人住民の多文化理解の支援 ・在住の外国人住民への日本語習得、外国籍児童生徒に対する母語教育の支援</p> <p>【3】1.講義：県内・市内外国人及び外国籍児童受入、日本の教育システム、外国人支援策、日本語教育などについて学ぶ。 2.見学・実習：外国人支援策策課、外国人支援団体、日本語教室、市内小・中学校学習支援クラスなどを視察や、関係者と一緒に協働しながら、課題を理解する。 3.作成：1、2の活動を通じて得た課題に対し、解決するための「手引き」作成 4.発表：研修成果や、研修の成果物としての「手引き」を関係各所へ向けて発表する</p>	<p>【必要資格】 母語がポルトガル語であること。 パソコン（PPTなどの）編集スキル</p> <p>学歴: 不問 経験年数: 不問 年齢: 不問 日本語: 日本語能力検定試験N2以上 多言語: 日常会話程度の英語力があればなおよし</p> <p>備考:</p> <p>・小松市内に住む日系人の多くがブラジルにルーツがある。 ・市内の民間企業「KOMATSU」の工場がブラジル、スザノ市内にあるため、スザノ市内にも提案元である小松市にゆかりのある日系社会人が多く両市は姉妹都市としても友好関係がある。</p>	<p>提案団体: 小松市国際交流協会 ウェブサイト: https://39kia.jimdofree.com/</p> <p>担当者名: 事務局宛 (本田 昌代) メール: kia@tvk.ne.jp</p>
NL3	青少年活動/外国にルーツを持つ子どもたちへの支援研修	1	下	11/6	3/17	4か月	<p>【目標】NPOによる海外ルーツ青少年に対する教育および自立就労支援活動、ITの支援活動への活用ノウハウを学ぶ</p> <p>【1】習得する技術 ①支援活動におけるIT活用：ZOOM,Slackを活用した当事者へのアウトリーチ、支援費会の提供およびSNSを活用した当事者へのアウトリーチ技術 ②海外にルーツを持つ子どもに対する教育支援技術：子どもを対象とした日本語教育、教科教育ノウハウ ③海外にルーツを持つ子どもを対象とした多文化コーディネート技術:不就学、不登校、高校進学希望者等の子どもを対象とした多文化コーディネート(保護者相談、地域や関係諸機関との連携協力、アウトリーチなど) ④海外にルーツを持つ若者を対象とした自立就労/キャリア教育技術：日本語を母語としない若者のためのITスキルトレーニング、就労セミナーの実施、キャリア教育などの関連技術 ⑤関連日本語語彙・表現：公益活動及び教育・自立就労支援に関連する日本語語彙や表現の習得</p> <p>【2】・在日日系人子ども向け(学習支援領域)プログラムの企画・実施(アウトリーチ、相談、コーディネート実践含む) ・在日日系人向け支援(就労領域)プログラムの企画・実施(アウトリーチ、相談、コーディネート実践含む) 上記を通じた在日日系人の子ども・若者、生活者に対する母語対話機会の提供</p> <p>【3】1. 子どもの日本語教育プログラムの見学 2. 子どもの教科学習支援プログラムの見学、実習 3. 子どもの高校進学支援プログラムの見学、実習 4. 多文化コーディネート実習 5. 若者自立就労支援プログラムの見学、実習 6. 在日日系人子ども向け(学習支援領域)プログラムの企画・実施(アウトリーチ、相談、コーディネート実践含む) 7. 在日日系人向け支援(就労領域)プログラムの企画・実施(アウトリーチ、相談、コーディネート実践含む) 8. 上記を通じた、在日日系人の子ども・若者、生活者に対する母語対話機会の提供</p>	<p>子どもの教育又は青少年支援活動の実践経験がある方、または今後母国でこうした活動に取り組んでいく意欲のある方</p> <p>学歴:- 経験年数: 1年以上 年齢:- 日本語: N2以上 多言語:-</p> <p>備考:</p>	<p>提案団体: 特定非営利活動法人青少年自立援助センター/YSCグローバルスクール ウェブサイト: https://www.kodomo-nihongo.com/index.html</p> <p>担当者名: 田中 宝紀 メール: ikitanaka@kodomo-nihongo.com</p>

NL4	外国につながりをもつ子供たちに対する学習支援と日本社会の多文化共生	2	上	5/8	3/10	<p>【目標】①外国につながりをもつ子どもたちに対する日本語教育と学習支援の方法を習得する。特にフリースクールを中心とした学習支援のサポートを行うことで、子どもたちの成長に応じたかわり方を学ぶ。 ②日本語教師養成講座を聴講することで、日本語教師に必要な理論面を学習する。 ③継承語支援やフィールドワークを通じて外国につながりをもつ子どもたちの視点で日本の多文化共生の現状と課題を明らかにする。 ④日本の大学生と交流し、調査やグループワークを通じて多文化共生についての政策提言を作成する。</p> <p>【1】①日本語教育の理論と実践を学ぶ ②継承語教育に関する基礎知識と実践を学ぶ ③日本の教育システムや多文化共生の現状について理解し、海外との比較が出来る視野を持つ。 ④日本の学校関係者や行政（教育委員会や国際交流協会）、市民社会や大学とのネットワークを築く ⑤帰国後、母国における学習支援において研修成果を還元し、指導力の向上を目指す</p> <p>【2】①外国につながりをもつ子どもたちに対する継承語によるコミュニケーションの促進 ②外国につながりをもつ子どもたちが抱えている課題を日本社会に伝えることで、子どもを取り巻く環境が改善される ③フィールドワーク調査を通じて定住日系人コミュニティの課題が明らかになり、行政や市民社会の支援につながる</p> <p>【3】・視察：千葉県内の国際交流協会や教育委員会、学校、外国人の集住地域（行徳、船橋、山武、成田）、地域の日本語教室 ・実習：多文化フリースクールちば及び県内公立高校にて学習支援 ・授業：日本語教師養成講座聴講（適宜）、千葉大学小川玲子ゼミナール（社会学）（週に1コマ） ・研究会参加：千葉大学移民難民スタディーズ研究会への参加（在日外国人や教育をテーマとした報告も多い） ・フィールドワーク：日系人の集住地域である八千代市米本団地や村上団地など ・報告会：千葉の多文化共生に対する提言（仮題）を行政や学校関係者や市民社会に対して行う</p>	<p>将来、研修の成果を日本語教師や多文化共生の分野で生かす予定があること</p> <p>学歴：- 経験年数：特になし 年齢：- 日本語：日本語能力検定3級程度 多言語：-</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：NPO法人多文化フリースクールちば ウェブサイト：不明</p> <p>担当者名：白谷秀一 メール：cjmsm833@ybb.ne.jp</p>
NL5	日系人を含む在日外国人の若者のキャリア支援、コミュニティエンバワメント	1	上	5/8	11/8	<p>【目標】若者のキャリア支援や自立支援の手法と、多様な住民が参画するコミュニティづくりの方法を習得する。</p> <p>【1】1 日本の高校でのキャリア教育、外国籍住民と地域や行政機関との関わり、若者の自立支援、コミュニティ活動、NPOの状況を理解し、母国との違いや参考にできることを学ぶ。 2 キャリア支援の手法やキャリア教育の方法を学ぶ。 3 コミュニティエンバワメントの方法論や官民連携の手法を学ぶ。</p> <p>【2】本研修では、研修員が高校などで日系人を含む外国ルーツの生徒が地域の多様な職業の人や先輩と交流できる学校内サロンや職場見学の企画運営を当会スタッフと行う予定である。外国ルーツであることを活かせる仕事や職場を開拓したり、仕事に就くための学習や体験プログラムも行う。そのプログラムは家にいて何かしたいと思っている若者や工場以外の仕事を探している大人にも提供する。 研修員は、キャリア教育や就労支援の方法、学校と地域の多様な職場との連携を学び、自立支援のノウハウを学ぶ。また、外ルーツの住民が地域でコミュニティグループをつくって活動し、行政機関に生活環境をよくするための提案を行うプロセスに関わり、コミュニティ形成や官民連携の方法を学ぶ。そうした学びは母国での人材育成、地域づくりにも役立つことが期待できる。さらに母国と日本での地域活動や対人援助、官民の連携の仕方がどう違うか、行政や市民活動関係者向けに報告を行い、外国ルーツの住民が参加しやすい活動を検討し、地域や行政に関わる人が増えるようにしていきたい。</p> <p>【3】講義：日本の教育システム、高校から社会に出る前のキャリア支援と卒業後の就職状況、外国籍住民への市民教育の状況、日本の自治体による各種サービスと外国籍住民の生活状況、日本のNPO活動の概況、組織運営、行政や企業との連携の状況 見学：県内小中学校、高校、特別支援学校、外国人学校、各種専門学校、大学、市役所、就労支援機関 実習：高校での対話サロン、キャリア教育、職場体験プログラムの企画運営のサポート、地域の外国籍住民向けのサロンや学習会、交流行事の企画運営のサポート 実施報告：日本と母国との比較について報告し、学校、行政、NPO関係者と意見交換を行う。</p>	<p>日系ブラジル人。 教育または就労支援に関する仕事の経験が2年以上。</p> <p>学歴：不問 経験年数：2年以上 年齢：不問 日本語：日本語能力検定試験2級以上が望ましい（応相談） 多言語：ポルトガル語</p> <p>備考：なし</p>	<p>提案団体：茨城NPOセンターコモンズ ウェブサイト：http://www.npocommons.org</p> <p>担当者名：横田 能洋 メール：info@npocommons.org</p>
NL6	日系人に対する日本文化の理解促進	2	上	5/8	2023/3/末	<p>【目標】研修員が、日本の地域社会にある日本文化を発掘し、継続的な交流のツールとして生かすと共に、研修での学びをブラジルにおける日系人社会に還元すること</p> <p>【1】①研修員が茨城県や常総地域の歴史や文化を理解する。 ②研修員が、体験・参加・交流を通して、茨城県・常総地域に根差した日本文化・伝統文化を理解する。 ③②をもとに、研修員が、より自国での応用可能な技術・手法を習得する。 ④研修員が、帰国後の具体的な活動計画を作成する。</p> <p>【2】本研修に参加する研修員には、日本文化全体の理解というよりも、「地域社会における日本文化」の知識を広げ、体験することにより、改めて、ブラジルの日系人社会で大切にしている日本文化の理解促進をするとともに、継続した地域社会との交流の仲介役としての役割を期待したい。その観点から、日系人社会を理解し、かつ日本の地域社会との結びつきを促進してくれる人材を希望する。この研修を通して、日本に在住する日系人の子供たちに、ブラジルにおける日系人が大切にしてきたものや一世、二世の歩んできた道を知ってもらいたい。研修員にはその一助になってほしい。一方、地域の日系人社会や在留外国人社会と、地域の日本人たちが、日本文化に関わる交流をさらに促進することで、お互いの文化への理解を促進し地域社会との融合をめざす。その研修員の帰国後でも、今回の研修をきっかけに生まれた交流の仕組みが出来れば、日本に在住する日系人が、地域社会と継続して交流を重ねることになる。これは大いに期待する。研修員には、少しでも、地域社会における様々な日本文化・伝統文化に触れることで、帰国後、その体験を基に、日系人社会に戻った後、日本文化を再認識し、活用し、伝承していただけるものと期待する。</p> <p>【3】1. 講義： ①日本における祭りなどの地域文化・行事について ②日本における世代間の意識の差や文化継承について ③地域における夏季や年末年始の季節ごとの伝統文化とその継承について 2. OJT：行政（市役所・教育委員会・学校・社会福祉協議会等）との協働 3. 交流：地域社会・学校・地域ボランティア 4. 研修実施：当校スタッフに対する研修。知識・技能の伝達。 5. 発表：学びと活動計画の発表</p>	<p>ブラジル日系人を想定。自国で、日系人社会における日本文化に関する知識を習得していること。</p> <p>学歴：不問 経験年数：実務経験は問わず、大学生も可 年齢：不問 日本語：現在の能力は問わないが、日本語の能力を身に付ける意欲は必要。 （当校の日本語教師によるスキルアップ支援は可能。） 多言語：ポルトガル語</p> <p>備考： 宿舍は、当校職員関係者の住居施設を予定。具体的な立地・設備等は後日、紹介者へ連絡</p>	<p>提案団体：特定非営利活動法人オプシオン・インターナショナル・スクール ウェブサイト：なし</p> <p>担当者名：ルシアネ・サカウエ・マユミ（Ms.） メール：escolaopcao@yahoo.com.br</p>

NL7	在日日系人コミュニティの活動支援	2	上	第一希望 5/8 (6/19 or7/24 の日程でも 相談可)	3/7	最大10か月	<p>【目標】研修員が在日日系人の現状を理解し、自らが外国人として生活することで見える「防災」「情報共有」「教育」などの具体的な課題に気づき、その解決に向けて企画および行動する能力を育む。</p> <p>【1】 1. 研修員は、日本におけるコミュニティ防災の手法を学ぶ 2. 研修員は、ラジオ、冊子、SNSによる情報発信に関する技術を習得する 3. 研修員は、在日日系人など外国にルーツを持つ子どもの教育（継承語、継承文化教育含む）に関する知見を習得し、自国の多民族教育に活かす 4. 研修員は上記過程において、在日日系人の現状について理解することに加え、自ら課題を見出し、課題解決に向けたネットワークを構築する等の活動能力を身に着ける。</p> <p>【2】 ・在日日系人コミュニティの防災活動への支援 ・在日日系人の生活情報、生活相談、生活課題解決への支援 ・在日日系人児童生徒の教育全般への支援</p> <p>【3】 1. 講義：① 在日日系人コミュニティの防災活動 / ② ラジオ、冊子、SNSによる情報発信 / ③ 在日日系人の子どもの継承語、継承文化教育、学習支援、進路指導等の教育サポート / ④ 在日日系人の生活相談（行政手続き、子育て、医療、仕事など） / ⑤ 情報の多言語化、コミュニティ翻訳通訳、医療通訳 ⑥ 市民団体運営管理全般</p> <p>2. 実習・調査：①②③④⑤⑥のすべてにつき、講義後に実習を予定。特に定期的な実習としては、防災教育ならびに訓練、インターネットラジオ番組 Latin-aの制作（毎週）、情報冊子 Latin-aの作成（月刊）、Facebookページの運営（毎日）、外国にルーツを持つ子どもの教育（母語教室月2回）など。実務を通じた現状認識および関係者との議論の中から、自ら課題を見つけ、調査およびヒアリングを設定し、解決策の提案までを研修実施団体のスタッフがサポートする。</p> <p>3. 見学・会議・イベント：研修員の参画するプロジェクトに応じて見学およびイベントを随時計画。関連団体や、兵庫県や神戸市等行政の実施する会議へ参加。地域の国際理解教育への協力。</p> <p>4. 面談：定期的に面談を実施（月1回および必要に応じて）</p> <p>5. 発表：たかとりコミュニティセンター関連団体にて、研修報告と意見交換を実施。</p>	<p>基本的なパソコンスキル（Word、Excel操作、SNS管理）</p> <p>学歴：不問 経験年数：2年程度（プロ・アマ問わず。応相談） 年齢：不問</p> <p>日本語： 1名は日常会話レベル、もう1名は報告書作成レベルの読み書き能力があれば望ましい。</p> <p>多言語： スペイン語が母語（もしくは母語同等レベル）であることが必須。</p> <p>備考： 映像編集スキルや記事執筆スキル、ITスキルも活かせます。 本コースに応募締切は、5月末日コースの応募締切の応募締切となります。</p>	<p>提案団体: 特定非営利活動法人多言語センターFACIL ウェブサイト: https://tcc117.jp/facil/</p> <p>担当者名: 山口 まどか メール: facil@tcc117.jp</p>
NL8	在日日系ブラジル人へのソーシャルワーク	1	上	6/19	3/4	8か月	<p>【目標】 ①地元行政及び外国人生活相談業務について十分に理解するとともに、多文化ソーシャルワークについて知る。 ②日本在住日系人子弟への日本語教育及び母語教育に貢献できる。 ③日本の教育制度や関連の機関の役割を理解する。 ④日系人子弟の就学及びキャリア教育に貢献できる。 ⑤研修員が母国において、生活における問題を抱える住民に対して、適切な助言や支援が出来るようになる。 ⑥地域住民へのブラジル文化紹介などにより相互の文化理解ができる。</p> <p>【1】 ・在住日系人が抱える様々な問題に対して、その解決方法が理解できる。在日ブラジル人が日本での充実した生活を通して、人生より大きな希望が持てるようになることで、研修員の成功体験の機会を得ることが出来る。 ・行政サービスや各相談窓口業務について学ぶとともに多文化ソーシャルワーカーについても学ぶことができる。 ・日本の教育制度を知り、在日日系人に伝えることで子弟教育 ・在日ブラジル人子弟との交流により、彼らにブラジル文化の継承のサポートをすることで、多くの子どもにアイデンティティの確立や自己肯定感を持たせる方法が理解できる。 ・日本語教育についての知識や日本語の指導法について習得ができる</p> <p>【2】 ・相談窓口業務の研修により、課題の把握と解決策について提案し改善に寄与できる / ・ブラジル文化の紹介や教育事情についての講義により、市民への多文化共生意識の啓発ができる / 在日ブラジル人と地域住民の交流を促進できる ・日本語指導や母語指導による子どもたちの学習意欲の向上</p> <p>【3】 ☆ 可見市及び可見市国際交流協会の取り組みを知り、在住ブラジル人の現状を知る ☆ 在日ブラジル人の生活相談窓口研修及び行政窓口研修 / ☆ 在日ブラジル人子弟の日本語教育支援や学習支援についての研修 / ☆ 在日ブラジル人子弟の母語指導教室での研修 / ☆ 日本語初期指導教室や市内小中学校、県立特別支援学校の見学 / ☆ 多文化共生フェスティバルの運営支援（10月末予定） / ☆ ブラジル文化の紹介などプレゼンテーションの研修（小学校等での文化紹介）</p>	<p>必要資格：特になし（ソーシャルワークや教育に関心がある方が望ましい） 母国言語：ポルトガル語</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語：N3以上 多言語：ポルトガル語。タガログ語</p> <p>備考： 当団体では定住外国人の子どもの教育事業を多く実施しており、日本語教育や子どもの教育について関心のある研修員が望ましい。また、2021年度、母語教育についての調査研究を予定しており、日系人のアイデンティティや継承語について関心のある研修員にとっては、研修員自身の知識向上/研究に寄与できる。</p>	<p>提案団体: NPO法人可見市国際交流協会 ウェブサイト: http://www.ck.ne.jp/~frevia/</p> <p>担当者名: 各務 真弓 メール: npokiea@ma.ctk.ne.jp</p>
NL9	日系ブラジル人とのカウンセリングを通じた多文化共生	1	上	5/8	3/3	10か月	<p>【目標】 ・研修員が、相談業務を通じて、海外（国外）で働き生活するブラジル人を取り巻く環境の特徴や課題を客観的に理解し、問題解決に向けた考え方や手法を習得する。 ・関係機関との連携体制の構築を図り、ブラジル人市民にとって最適な相談体制を設けることで日本人同様に安心して暮らせる環境づくりの構築に向けて実践する能力を得る。</p> <p>【1】 日本での生活や仕事におけるストレス、コロナ禍での環境変化にどう対応してよいか分からない等の悩みをかかえるブラジル人市民がプライバシーの厳守された相談先でカウンセリングが受けられる。それにより、研修員は問題の洗い出し、関係機関との連携をとって課題を解決するための考え方や手法を習得できる。</p> <p>【2】 ブラジル人専門家によるポルトガル語でのカウンセリングを実施することで、日本人からの偏見の目を恐れ心に問題を抱えるにも関わらず表に出せないブラジル人にとり、安心して相談できる体制が構築でき、問題の掘り起こしや早期発見、適切なケアを行うことが可能となり、安心して日常生活を送れるように借るための支援に貢献する。</p> <p>【3】 【講義】 ・日本の労務管理の基礎知識 【意見/情報交換】 ・関連機関(入管・ハローワーク / ・社会保険事務所・保健所・税務関係・自治体・教育機関) / ・ブラジル人コミュニティとのコミュニケーションづくり / ・他都市の国際交流協会相談員とのコミュニケーションづくり 【演習】 ・日本語学習 / ・日本文化理解 / 【見学】 ・関連施設、ブラジル人コミュニティ等</p>	<p>必要資格：現在、カウンセラー或いは類する業種に従事していることが望ましい 母国言語：ポルトガル語</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語：日常会話 多言語：ポルトガル語</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体: 公益財団法人豊橋市国際交流協会 ウェブサイト: http://www.toyohashi-tia.or.jp/</p> <p>担当者名: 竹岡 美代子 メール: tia@tia.aichi.jp</p>

NL10	教育・保育現場における子どもの心理相談	1	上	5/8	3/3	10か月	<p>【目標】日本の教育現場を体験し、学校・保育園生活や学習に慣れを感じる子どもへの心理面のサポートをするための技術を習得する。</p> <p>【1】① 研修員が西尾市でくらす多言語で育つ子どもの状況を理解する。 ② 研修員が対象児童生徒への適切なアセスメント方法を理解する。 ③ 上記の2項をもとに、研修員が自国で応用可能な技能等を習得し、整理する。 ④ 研修員が帰国後の具体的な活動計画を作成する。</p> <p>【2】・対象となる子どもとの母語でのコミュニケーション実施 ・保護者への母語での説明支援、サポート ・保護者に対する学校教育、文化についての理解促進支援</p> <p>【3】1. 講義：①日本にくらす多言語で育つ子どもと家庭についての概要 ②日本の保育所・小中学校の概要 ③アセスメント手法 2. 実習・OJT：保育所・小中学校訪問、子どもの実態把握、アセスメントの実際 他 3. 見学：対象となる子どもの在籍園・校および集住地域視察 4. 演習：対象となる子どもへアセスメントを実施し、家庭や教育現場へ還元する方法について検討する 5. セミナー：保育・教育関係者との情報交換会 6. 発表：保育・教育関係者への成果発表</p>	<p>必要資格：臨床心理士（認定機関の指定なし） 利用可能な言語：ポルトガル語</p> <p>学歴：不問 経験年数：3 年齢：不問 日本語：日常会話 多言語：-</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：社会福祉法人せんねん村 ウェブサイト： https://tabunkakibou.wordpress.com/information/</p> <p>担当者名：川上貴美恵 メール：tabunka.room.kibou.2014@gmail.com</p>
NL11	ラテンアメリカからの子どもたちのための日本語指導者養成	2	上	5/8	11/9	<p>【目標】1. 研修員が南米の子どもたちに有効な「母語での識字指導法」、「日本語の指導法」を習得する。 2. 研修員がそれぞれの国に合った「ひらがな表」「カタカナ表」を生徒と協働作業により作成する。 3. 自身のレベルにあったムンド校の日本語授業を受け、生徒の目線で日本語教育を考えると同時に、自身の日本語能力も向上させる 4. 習得した指導法を在日外国人コミュニティに実践し、その有効性を実感するとともに、在日コミュニティの識字学習へのモチベーションを向上させる。 5. 研修員が在日日系人の子どもたちの日本語教育の現状・問題・課題について理解する。 6. 自身の研修での学びを発表する。</p> <p>【1】1. 年少者を対象とした「ひらがな」「カタカナ」の指導法を体感しながら習得し、実践する。 2. 非漢字圏の子どもたちのための「漢字指導法」を体感しながら習得し、実践する。 3. 研修者の母国語での「ひらがな表」「カタカナ表」を作成する。 4. 年少者に有効な「日本語指導法」を体感しながら習得し、実践する。 5. 研修中、日本語の授業を受け、自身のレベルに合った日本語能力試験を受験することで、子どもたちの日本語学習について身を持って経験するとともに、自身の日本語能力向上も図る。 6. 南米では子どもたちに効果的に日本語を指導できる指導者が少ない。日本人の日本語教師が少ないのはもちろんだが、南米人で日本語指導できる者が育成されていないからである。本研修で研修生が指導法を学び、教材を作成していくことによって、帰国後、研修生が日本語指導者として成長するだけでなく、他の日本語指導者を養成することができる。</p> <p>【2】1. 生徒と協働で「ひらがな表・カタカナ表」を作成し、それを活用し日本語初級レベルのひらがな・カタカナ指導ができる。 2. ムンド校で開発した「母語での識字指導法」を習得し、その有効性を日系人コミュニティに伝えることで日系人の識字学習のモチベーションを向上させる。</p> <p>【3】1. 生徒として編入体験—編入生として生徒と同じ体験をする。また、その間に生徒とできるだけコミュニケーションをとる。/ 2. 日本語授業受講 / 3. 日本語授業アシスタント / 4. 日本語能力試験対策クラス受講 / 5. 座学 / 6. 日本語指導法習得 / 7. 「ひらがな表」「カタカナ表」作成 / 8. ひらがな指導実習 / 9. 漢字指導実習 / 10. 日本語指導法OJT及び実習—日本語能力のある研修員は日本語指導法を習得後、実際の日本語授業でOJT及び実習を行う。 / 11. 振り返り—毎週振り返りシートを作成する。 / 12. 日本語教育の活動（指導）計画、実施—これまでの研修での学びを基礎に自身がやってみたい日本語教育活動（指導）を計画し実施する。 / 13. 研修成果発表</p>	<p>・母語言語はポルトガル語又はスペイン語 ・日本語教師を目指す人が望ましい</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語：不問 多言語：ポルトガル語、スペイン語</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：学校法人ムンド・デ・アレグリア学校 ウェブサイト：http://www.mundodealegria.org/</p> <p>担当者名：岡 則子 メール：okamundodealegria@gmail.com</p>	
NL12	外国人学校「ムンド・デ・アレグリア学校」で学ぶ複文化メディアーター研修	1	上	5/8	8/9	<p>【目標】1. 日本の在日日系人の課題・問題を把握する。 2. 子供たちの置かれている現状・教育問題を理解する。 3. 在日コミュニティの多文化共生のために何が必要であるかを自ら考え、課題解決を策を模索する。 4. 研修での成果を日系人コミュニティで発表する。 5. 研修員が帰国後も母国にある日系企業・日系社会において潤滑油になることが出来る。</p> <p>【1】・相手文化・思考を理解し共生に向けて獲得した知識・知見を伝える能力を身に付ける。 ・研修員が帰国後、南米在住日本人と地元住民との潤滑油となるような能力を身に付ける。 ・日本語と南米をつなげ友好関係を構築できる「草の根外交」につながる能力を身に付ける。</p> <p>【2】・コミュニティで未だ孤立して生活している人たちに積極的に日本社会に係れるように導く考え方を実施する。 ・習得した体験を発表する機会を設け自らの言葉で伝える。 ・日系人コミュニティのキーパーソン（メディアーター）の人材育成</p> <p>【3】1. 生徒として編入体験：高校生クラスに編入生として入り、生徒と同じ体験をする。また、その間に生徒とできるだけコミュニケーションをとる。 / 2. 講義：学校長により多文化共生のノウハウ、南米人とのかわり方等 / 3. コーディネーターの仕事の理解：生徒指導、保護者対応、教員対応、外部対応等 / 4. 教員のアシスタント業務 / 5. 授業実習 / 6. 児童・生徒へのヒヤリング：問題発見、解決策の模索 / 7. 日系継承教育研修見学及び意見交換 / 8. ミッション実施：課題解決を行う / 9. 発表：上のミッション又は研修成果について発表 / 10. 振り返り・報告書作成</p>	<p>・母語言語はポルトガル語又はスペイン語</p> <p>学歴：不問 経験年数：不問 年齢：不問 日本語：不問 多言語：ポルトガル語、スペイン語</p> <p>備考：</p>	<p>提案団体：学校法人ムンド・デ・アレグリア学校 ウェブサイト：http://www.mundodealegria.org/</p> <p>担当者名：岡 則子 メール：okamundodealegria@gmail.com</p>	
NL13	幼児保育・教育	1	下	10/2	1/31	<p>【目標】日本における幼児教育を理解し、ブラジルとの違いを知り、日本の幼児教育をブラジルで実践できるようになる。また、将来的には今後の日本とブラジルの懸け橋になることを目指す。</p> <p>【1】1. （主に幼児教育における）日本語コミュニケーション能力を取得する。 2. 日本の幼稚園でのクラス補助業務を理解し、その手法を習得する。 3. 日本の幼稚園での園外活動を理解し、その手法を習得する。 4. 登降園時の保護者と職員とのコミュニケーションの重要性を理解し、実践できるようになる。</p> <p>【2】幼稚園でのクラス補助業務を通じて、日系ブラジル児への言語支援により発達促進を図ることができる。また、幼稚園と保護者、延いては幼稚園と在日日系人コミュニティとの間での情報共有が促進され、良好な関係を構築することができる。</p> <p>【3】・講義：日本の幼稚園でのクラス補助業務、園外活動の計画立案、保護者とのコミュニケーション等。 ・実習：幼稚園等でのクラス補助、園内外での活動への参画、登降園時の保護者と職員とのコミュニケーション支援。</p>	<p>・幼児教育や保育についての基礎知識あるいは関心があること。 ・実務経験3年以上（目安） ・子どもとのふれあいが好きで、終日子どもと楽しく過ごせる人</p> <p>学歴：不問 経験年数：3年 年齢：不問 日本語： 日本語での指示、説明などが概ね理解できる（N4程度） 多言語：-</p> <p>備考： 日系ブラジル児の通う幼稚園、保育所の活動が想定されて</p>	<p>提案団体：島根県出雲市 ウェブサイト： https://www.city.izumo.shimane.jp/www/toppage/0000000000000/APM03000.html</p> <p>担当者名：岡田 大介 メール：hoiku@city.izumo.shimane.jp</p>	

NS1	学校における多文化共生	3	下	10/2	10/31	1か月	<p>【目標】(1)南米からの研修員と日本の教員が、それぞれの教育における学校制度、学校生活、教育観などの「違い」について、表面上の「違い」のみならず基になる考え方の「違い」について教員同士等ならではの深い議論口検討を行なう。 (2)上記で得られた知見をわかりやすいガイドブックにまとめる。 (3)並行して、日本の小中学校での日本語教室を含む学校生活の体験実習、市及び県教育委員会での研修、PTA役員との意見交換、在日外国人キーパーソンとの意見交換、外国人児童生徒支援団体との意見交換及び実習等を行い、現場を肌で知ることでの知見も上記(1)(2)に反映させる。 (4)ガイドブックも使用し研修員が講師となつて、県内の教育関係者向けのセミナーを開催し、知見を広めると共に、そこでの質疑応答を通して研修員の考えを深化させる</p> <p>【1】(1)教育面における日本と母国の様々な「違い」に関する深い知見の習得及びそれらを教育現場に反映させる教育技術 (2)知見をわかりやすいガイドブックにまとめる技術 (3)セミナー講師を務めることによる知見の伝達と交流の技術</p> <p>【2】(1)在日日系人が、普段断片的に経験する小中学校における「違い」起因のトラブル・違和感について、表面的な違いのみならずその基となる考え方まで含めた体系的な知見を得ることにより、受け身ではない積極的な教育への関わりが可能となる。具体的には、日本の学校支援活動、地域における町内会など共助活動。 (2)大学などの高等教育まで視野に入れた「違い」を学ぶことにより、子どもの将来につながる教育プランを作成しやすくなり、多様性を含めた社会で活躍できる人間の育成に貢献できる</p> <p>【3】(1)研修員と日本の教員との教育面の「違い」の学び合い・検討ミーティング(3時間×2回開催) (2)「南米各国と日本の小中学校の教育・学校生活'文化の違いガイドブック」の作成 (3)現場実習・研修...日本の小中学校の日本語教室等、教育委員会、外国人児童生徒支援団体など (4)セミナー「南米各国と日本の小中学校の教育の違いを知り、多様性教育に生かそう」の開催</p>	<p>小学校もしくは中学校の教員資格又はこれに準ずる資格</p> <p>学歴:- 経験年数: 小中学校もしくは日本語学校にて合計3年以上もしくは教育関連機関(教育省、州政府教育部署、自治体教育部署およびこれらに準ずる機関)在籍者(経験年数1年以上) 年齢:- 日本語: N1もしくはN2取得者、または相応レベル 多言語:-</p> <p>備考:</p>	<p>提案団体: NPO法人Gコミュニティ ウェブサイト: https://zip-ed-gcommunity.jimdofree.com/</p> <p>担当者名: 本堂 晴生 メール: hondo.haruo@gmail.com</p>
NS2	母語による自己表現能力向上のための教材作成	1	上	7/24	9/24	2か月	<p>【目標】外国ルーツの子どもがもつコミュニケーション上の問題を理解し、対人関係やアサーション等のスキルを楽しく学べる母語教材を作成する。</p> <p>【1】1 地域に暮らす多様なルーツをもつ子どもの現状を知り、教材の形式や題材など、具体的内容を提案できる。 2 日系人だけでない「多文化」の共生について考える機会をもち、地域課題としての「多民族」「多文化」の共生について理解する。</p> <p>【2】1 教材作成により、外国ルーツの子どもへの学びの機会を増やし、コミュニケーションに新たな一歩を踏み出すきっかけを創出する。 2 研修参加者自らロールモデルとなることにより、子どもたちへのエンパワメントの一環となる。</p> <p>【3】1 日本語・日本文化研修 ・「東灘日本語教室」にて日本語および日本・地域の習慣、日本人のコミュニケーションの特徴について学ぶ ・日系人学習者との交流 2 講義 ・地域の多文化共生の現状 ・外国ルーツの子どもの支援の現状と課題 3 関連団体との意見交換 ・「深江地区まちづくり協議会・未来創造部会」の会議への出席 ・神戸市内および県内のNGOの訪問および研修への参加 4 教材の作成 ・母語による自己表現力向上のための教材(テキスト案作成、翻訳) 5 学習支援の実践 ・当団体と活動拠点を共有する「こうべ子どもにこにこ会」が実施する学習支援の場を活用</p>	<p>不問</p> <p>学歴: 不問 経験年数: 不問 年齢: 不問 日本語: 日本語能力試験 N2程度以上 多言語: スペイン語(母語または同等レベル)</p> <p>備考:</p>	<p>提案団体: 多文化共生センターひょうご ウェブサイト: https://www.tabunka-hyogo.org</p> <p>担当者名: 北村 広美 メール: hyogo@tabunka.jp</p>
NS3	日本語初期指導	1	上	6/19	7/29	1か月	<p>【目標】日本の教育システムや多文化共生の現状を理解し、学校と連携機関における外国籍児童生徒への日本語支援の仕組みを習得する。</p> <p>【1】1.日本の教育システムや多文化共生の現状について理解し、母国との違いについて学ぶ。 2.日本の学校現場における日本語支援の内容や方法、学校関係者との連携や保護者への対応のノウハウを学ぶ。 3.母国での日本語支援にて研修成果を生かし、指導力向上を目指す。</p> <p>【2】・外国籍等児童生徒に対する母語でのコミュニケーション支援 ・児童・生徒の多文化理解及び学校関係者の多文化理解の支援</p> <p>【3】講義: 日本の外国籍児童生徒の現状と課題、大人と子どもの指導法の違い、日本語教授法、やさしい日本語、日本語を教えるポイントなど 見学: プラス・エデュケート内日本語教室及び放課後学習支援、オンライン授業など 実習: 日本語初期指導サポート、学習支援サポート、 発表: 母国紹介(管轄の小中学校にて)</p>	<p>必要資格; 小・中学校の教員免許を有する。又は日本語指導の資格を有する。</p> <p>学歴: 不問 経験年数: 3年(日本語指導経験) 年齢: 不問 日本語: 2級以上 多言語: ポルトガル語</p> <p>備考:</p>	<p>提案団体: 認定特定非営利活動法人 プラス・エデュケート ウェブサイト: https://www.plus-educate.org/</p> <p>担当者名: 森 顕子 メール: plus_educate@yahoo.co.jp</p>
NS4	日本における防災と災害支援について	1	上	7/24	9/8	1.5か月	<p>【目標】①日本(世界基準・行政レベル(国及び自治体)・民間レベル(企業・NGO))の防災及び災害支援について学ぶ。 ②日本で学んだノウハウを元に、自国で実現可能な防災計画・災害支援計画を考える。</p> <p>【1】日本で作成した「自国での防災計画・災害支援計画」を基に、帰国後、実現に向けて準備を進める。 -防災に関する活動の実施 -備蓄品準備 -防災・災害支援に向けたネットワーク作りなど</p> <p>【2】在日日系人と面会し、研修員の国及び日本の災害発生時、必要な支援を行いあう連携について協議。研修員が帰国後も在日日系人の方々と相互支援に向けた準備をすることが可能となる。</p> <p>【3】0.来日前課題: 自国の過去の災害、自国の医療制度・災害対応について調べる。(来日後、AMDA内でプレゼンテーションを実施)</p> <p>1.講義: 日本の防災・災害対応、AMDAの災害対応等 2.訪問・見学: 国連・政府関係、行政(国・自治体等)、民間(企業・団体・NGO等) 3.実習: 自国の医療制度・災害対応についてプレゼンテーション、自国での防災・災害支援計画作成・発表 4.研修報告</p>	<p>不問</p> <p>学歴: 不問 経験年数: 不問 年齢: 不問 日本語: 日常会話レベル以上 多言語: -</p> <p>備考: ・研修内容について、有事の際等、実際の研修実施時期の状況により変更する可能性がある(AMDAが災害支援を実施している場合、支援活動に参加いただく可能性もある。) ・研修時はAMDAボランティアの方と活動していただくこともある。</p>	<p>提案団体: 特定非営利活動法人 アムダ ウェブサイト: https://amda.or.jp/</p> <p>担当者名: ブルックス 雅美 メール: brooks@amda.or.jp</p>